

科目	専攻科特別研究II (Graduation Thesis for Advanced Course II)		
担当教員	専攻科講義科目担当教員		
対象学年等	都市工学専攻・2年・通年・必修・8単位		
学習・教育目標	B1(15%) B2(15%) B4(5%) C2(65%)	JABEE基準1(1)	(d)2-a,(d)2-b,(d)2-c,(e),(f),(g)
授業の概要と方針	専攻科特別研究Iを継続する。専門知識の総合化により研究開発およびデザイン能力を高める。研究課題における問題を学生自ら発見し、広い視野をもって理論的・体系的に問題解決する能力を養う。研究テーマの設定にあたっては研究の新規性、有用性、理論的検討を重視する。研究の内容や進捗状況を確認し、プレゼンテーション能力の向上を図るため発表会を実施する。研究成果を報告書にまとめ提出する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C2】設定した研究テーマについて、専門知識をもとに研究遂行能力を養う。		研究課題の探究力、実験計画力、研究遂行力を日常の研究活動実績から、および最終報告書の充実度から評価する。到達目標4と合わせて70点とする。
2	【B1】研究の経過を整理して報告し、研究内容を簡潔に発表する能力を身に付ける。		研究発表会30点（内容と構成10点、発表10点、質疑応答10点）として評価する。
3	【B2】研究内容に関する質問に対して的確に回答できる。		研究発表会30点（内容と構成10点、発表10点、質疑応答10点）として評価する。
4	【B4】研究に関連した英語の文献を参照することができ、研究内容の概要を的確な英語で書くことができる。		研究テーマに関連した英語論文を自らの研究に役立てているかは、日常の活動状況や発表会での参照状況から評価する。研究概要を英語で的確に書けているかは最終報告書で評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は研究課題の探求・実験計画・研究実績および最終報告書の充実度で70%、特別研究発表会の充実度で30%（中間10%・最終20%）として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	都市工学に関する科目全て		
履修上の注意事項	本教科内容に関してI、IIの期間中に、最低1回の学外発表（関連学協会における口頭またはポスター発表）を義務付ける。		

授業計画 1 (専攻科特別研究II)

内容(テーマ, 目標, 準備など)

1. 角型内鋼管を有する二重鋼管・コンクリート合成部材の圧縮強度  
角型内鋼管を有する二重鋼管・コンクリート合成部材の圧縮特性の解明を試みるとともに、従来の二重鋼管合成短柱で得られた結果との比較を行う。
2. 地震時にはり中央がせん断崩壊する鋼一層門形ラ - メンの柱の軸力変動に関する研究  
箱形はり中央腹板がせん断崩壊する鋼一層門形ラ - メンの地震応答解析を行い、はりのせん断崩壊の有無による柱の軸力変動を定量的に把握し、柱基部の地震時損傷について考察する。
3. 公共文化施設の立地条件と適切配置  
図書館、文化会館、市民体育館等の市民向け公共施設の各都市における立地状況から、都市計画上の適切配置手法を提案する。
4. 都市河川河口動態の解明  
ラジコンボート等のユビキタスな計測装置を用いて、都市河川河口の動態を明らかにする。
5. 淡路島沿岸漁港の津波被災リスク評価  
淡路島島内に点在する漁港の津波被災リスクを数値シミュレーションで評価し、南海トラフ地震に対する減災・防災対策について検討する。

備考 本科目の修得には、240 時間の授業の受講と 120 時間の自己学習が必要である。  
中間試験および定期試験は実施しない。